

そこで兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によ って、教えられた言い伝えを守りなさい。 Ⅱテモテ2:15

2015(27)年 週 報

12月6日
第1聖日
第3432号

「受胎告知」

聖 言

ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身
になりますように。 ルカ1:38

礼拝の恵み 第二二章

第十部 礼拝の効果

礼拝の意義、重要性・権威・対象・土台・力・仕方・障害・場所と論じてきたので、結論として礼拝の効果について考えて、この研究をおわりたい。礼拝の結果は偉大であって、神、信者、集会、未信者におよぶ。

第一節 神が栄光を受けられるであろう。

礼拝は神に、すべてのことにおいて絶対的に第一の者であるという正当の場所を与える。礼拝は神に、その本質とみわざとのゆえに当然ささげまつべき賛美と誉れと栄光とをささげられる。人間の主目的は神を体験し、永遠に神に栄光を帰すことであるというのには、至言である。クリスチャンは三位一体の神と、創造・贖罪・新生にあらわれている聖性の超絶さと、注意を集中するとき、驚嘆と畏敬と敬慕と礼拝とにわれを忘れるであろう。こうして、これら一切を可能にしたもうた御力のもろもの栄光を信者はあらわす。ロバート・ホールが見事に言っている。神を理解することができたら、われわれは献身だけで満足してはられないであろう。こうした存在を黙想するとき、主題をオーバーするという危険は存在しない。われわれが語っている相手は、無限の対象であって、その本質と目的との深淵さは、とうてい、われわれの達することのできるのではない。
(APギブス「礼拝」より)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一五年一月二十九日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「道徳的退廃」(アドベント)

「道徳的に無感覚となった彼らは、好色に身をゆだねて、あらゆる不潔な行いをむさぼるようになっていきます。しかし、あなたがたはキリストのことを、このようには学びませんでした。」

(エペソ四ノ一九、二〇)

「幼子よ。あなたもまた、いと高き方の預言者と呼ばれよう。主の御前に先立って行き、その道を備え、神の民に、罪の赦しによる救いの知識を与えるためである。」(ルカ一ノ七六、七七)

祈り

エペソの人たちは神を畏れず、ひたすら幸福になることを望みました。その結果は道徳的な退廃した生活でした。人間が生ける神様から離れたなら、不道徳が世界を覆います。殺し合いと姦淫の罪が世界を覆っています。このような中に今年アドベントを御迎えます。神様この世界に真の平和が来るように私たちの心を神様に向けさせてください。

今年もアドベントを迎えました。キリストの初臨と再臨を意味する言葉です。西方教会では聖アンデレの主日(一月三十日)に最も近い主日が降誕節の始まりとされている。そして十二月二十五日の御降誕まで主の来臨を年毎に深く覚えるために、早くから備えるこの期間には有益である。

ザカリヤは祭司であった。当時イスラエルは墮落していた。その中で神様のまえに正しく、主の戒めと定めとを落ち度なく行っていた。唯一の悩みは妻エリサベツに子どもがなかったのである。彼はくじにあたり、至聖所に入り香を焚くことになった。突然天の使いが来て、エリサベツに子が与えられる。とおつげがあった。彼は信じることができなかつた。それでものが言えなくなつた。

その子はエリヤの力で主の前触れをし、イスラエルを真の神である主に立ち返らせる。すなわち、神様がこの世に来られることを告げ知らせるということである。

今の社会は全てが平和になるのではなく、背後にだれかが苦しむのです。本当の平和は私たちの創り主からきたるものです。しかも、そのお方が人間としてお生まれになりましたのです。そこまでして、わたしたちに真の平和を与えようとしてくださいます。

二〇一五年一月二日午後七時 祈禱会 山本牧師

祈禱課題

- 1、クリスマス献金予算一〇〇万円があたえられますように。
- 2、水野洋一、夏子夫妻が聖霊によって奉仕されますように。
- 3、献身者が与えられますように。
- 4、聖天教会リーチュハン兄が豪州で召命の声が与えられるように。
- 5、教会と大日丘のクリスマスが祝されるように。
- 6、新年聖会のために。一月一日、二日(試案)
- 7、五〇日間連続祈禱二七回目。家族の学び。

「イスラエルの一二部族の相統地」

「部族の名は次のとおりである。北の端からヘテロンの道を経てレボ・ハマテに至り、ハマテを経て北のほうへダマスコの境界のハツアル・エナンまで 東側から西側がわまで、これがダンの分である。ダンの地域に接して、東側から西側までがアシエルの分、アシエルの地域に接して、東側から西側までがナフタリの分。」

(エゼキエル四八ノ一、二)

第一に、この割当てにおいては、「あなたがたと、あなたがたの間で子を生んだ、あなたがたの間の在留異国人とは、この地を自分たちの相続地として、くじで割当てなければならぬ。あなたがたは彼らをイスラエル人のうちに生まれた者と同じようにあつかわなければならない。」(四七ノ二三)と在留異国人が全く平等に扱われている。メシヤの御支配のもとで、すべての差別がなくなつたからである。「ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあつて、一つだからです。」(ガラ三ノ二八)。人はキリストによつて自らに満ち足りる時、自由人となつてすべての人と共存できるのである。

第二に、ヨルダン川の東側ギルアデの地は割当ての対象になつていない。その地がルベン、ガド、マナセの相続地となつたのは、彼らが勝つてにその地を所有したいと申し出たからである。彼らの姿勢は自分たちの願いがいられるなら共同体にとどまるが、いれられないなら共同体から出るという姿勢である。そのような姿勢で成り立つた共同体に一体感も連帯の強さもない。イスラエルがやがて南北に分裂し、滅び行くのは当然の帰結である。第三に出エジプト時の時には、各部族は自分の責任で相続地を占領しなければならなかつたので、不徹底であつた。しかしあたらしいイスラエルにおいては、すべてを主からいただくことになる。エデンの園でもそうだったようだったように、それが本来的な人間のある方である。メシヤの王国は自負心を砕かれた幼児のような者たちの国なのである。

国土の中央部にある奉納地の南側の長さ二万五千キュビト、幅五千キュビトの部分に町が建てられる。その町は、一辺四千五百キュビトの正方形出回りに二五〇キュビトの放牧地を持つてい(二五ノ一八)。